

三鷹市高齢者センターけやき苑認知症対応型通所介護

平成 28 年度上期 運営推進会議議事録

1. 日 時 平成 28 年 12 月 1 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 30

2. 場 所 けやき苑 食堂

3. 参加者 【委員】

利用者 A さん

利用者家族 欠席

地域住民代表 民生・児童委員さん

知見を有する者 野ざきの家管理者さん

地域包括支援センター 大沢地域包括支援センター相談員さん

【主催者】

国府田祥二、門脇かづ代、岡田徹也（書記）、有江小百合

4. 議事内容

1) 主催者挨拶・本会議の趣旨説明 国府田

2) 参加者自己紹介

3) 事業実績報告 別紙①

4) 活動内容報告 別紙②

※当日は別紙②の資料のほかに、活動の様子を写真投影にて解説した。

5) 質疑応答・意見交換 等

(委員) けやき苑の滞在時間についての質問。

(職員) 6 時間滞在が基本、ご希望で 7 時間以上 9 時間未満の枠で滞在は可能。朝のお迎えが早くなるため、希望は少ない状況で推移している。

(委員) 認知症の種類について教えてほしい。

～それぞれの特徴について大沢包括相談員さん、野ざきの家管理者さんより説明～

(委員) 認知症登録のご家族に対して具体的にどのような取り組みをされているのか。

(職員) けやき苑全体での家族会開催、地域サービスデー、けやきの会での家族会を実施している。

けやきの会での家族会では、ご家族同士でのお話の中で共感できることが見つかったり、お互いの介護に対する苦労を労うことで、参加者からは前向きな感想をいただいている。また日常的に連絡ノートを使ったやり取りもできている。介護の悩みや、自宅での様子などが記入されており、担当職員から返事を出している。

(委員) 地域での徘徊の例で、奥様が認知症で外に出る際、ご主人はお金と住所などを書いた紙を持たせて一人で送り出す家がある。心配だが地域としてどうすればいいのか。

(委員) 素晴らしい対応だと思う。家に閉じ込めていくのではなく、認知症の方も自由に外に出られることは大切。

(職員) 素晴らしい取り組みだと思うが、その一方で信号がわかるのか、横断中など車をよけることが出来るのか、などどの程度安全に歩けるのか、認知症の度合いを見たうえで対応を考える必要もあるのではないかと。何より、地域の方が、もっと認知症への理解が高まり、地域ぐるみで見守っていける事が大切だと思う。

(委員) 地域包括支援センターの取り組みが少しづつ実りつつあるが、より一層の取り組みが必要などころだと思う。

(委員) 男性介護者が増えている現状について。

(職員) けやきの会でも、奥様を介護するご主人が増えている。男性介護者の方は比較的几帳面な方や勉強熱心な方が多く、それまでやったことの無かった家事をこなしたり、皆さん本当に一生懸命取り組まれている。認知症という病気を受け入れるために頑張る方が多い印象。そのようなご家族に対しても、けやき苑から色々な情報発信をしていきたい。

(委員) けやきの会の活動で気にかけているポイントは何か。

(職員) 忘れてしまうことに着目するのではなく、その瞬間がよかったと思えるような働きかけをしたい。活動内容も決められたスケジュールをこなすのではなく、その日の体調や、天候、話題になった話などから考え、「今」を大切にしたい活動ができるよう心掛けている。また、普段の体操も気候や体調によっては苑庭で行ったり、散歩やドライブなどの外出、園芸や調理活動なども効果的に取り入れている。

(委員) けやきの会の中でも、活動性の高い方・低い方がいると思うが、どのような対応をされているのか？

(職員) 体力面だけではなく、精神面でも活発な方とそうでない方がいる中で、活動内容にも苦慮している。対応する職員が4名いるため、個別対応を行ったり、場の様子を見たとえでその場で判断しながら、同じ活動に参加していただいても、その方にとっての参加の仕方を工夫しながら調整している。参加者のその日その時の状態を確認し、メリハリをつけながら取り組める活動にしている。

(委員) 介護度の平均が3とほかの施設よりはおそらく高めになっている。その分、大変な面も多いと思うが、経営的には安定しているのではないかと。思う。

(職員) 平均要介護度には変動があるが、一般のデイとの併設である特徴や職員配置が手厚いことから、けやき苑でなければ対応が難しいという方の受け入れも少なくない。その分重度の方も多くなっていると思われる。

(委員) 一般登録から認知登録への変更とは？ 何か基準があるのか。

(職員) ①認知症の診断があること②認知症に関わるお薬が処方されていること③医師の意見書にある、認知症高齢者自立度がⅡb以上であることを、判断基準にしている。一般登録の利用者において、認知症状の面で活動への参加が難しくなったり、帰宅欲求など個別対応が多くなった利用者に対して、ご家族、ケアマネジャー相談の元、登録の変更を行っている。利用料金は高くなるが、職員配置が手厚くなることや、個別に対応がしやすい環境になること、少人数のメリットなどを説明することで、登録変更は比較的スムーズに行えている。

逆に移行できないケースとしては、①認知登録の枠が満員②現利用者とのマッチングの問題③利用料の問題などがある。

また、利用者自身も、認知登録移行後の方が落ち着いてのびのびと過ごせていたり、表情が柔和になったりと、これまで移行してきたケースでは「移行してよかった」と思えるケースがほとんどであった。

(委員) 認知症の方の対応で難しいことはあるか。

(職員) その方への介護方法のみで、症状の安定は難しいと感じている。やはり、医療との連携が必要で、専門医への定期的な受診をお願いしたい。なかなか受診に繋がらないお宅が多い。認知症の受診においては、「何か変だな」と本人が最初に気づき自身で受診される方が増えている。家族が受診を進める時には、本人の状況はさらに進んでいることが多いのではないか。そのようなことも、地域に発信していきたい。

(委員) 事故・ヒヤリハット報告について。

(職員) 今回ご報告の中にある苦情に見られるように、同じような内容のヒヤリハットや事故が重なって大きなミスが起こっている。今までも報告に上がっていないヒヤリハットが多数あったと思われ、報告書を細かく提出するようにしたところ、職員の意識も高まり、ミスは減少傾向にある。引き続き注意して対応したい。

(委員) (利用者Aさんに質問) けやき苑はいかがですか？

(利用者Aさん) けやき苑がいいところなんで、私は週4回もお世話になっているんです。手先の細かいことは得意なんで、よくいたずらしてます(笑)。職員の方も親切で良くしてもらってます。

6) 施設見学

5. 次回予定 平成29年3月頃

認知症対応型通所介護 けやきの会

けやきの会では

- 認知症があっても、住み慣れた地域や環境で安心して在宅生活が続けていけるように支援しています。
- 認知症に伴う諸症状に考慮し「できないこと」に捉われるのではなく、「できること」に着目しながらその方の持っている「ちから」を引き出し、心身の機能の維持や認知症進行の予防に努めています。
- 馴染みのある環境の中でひとりひとりのペースに合わせて日常生活上の支援を行い、安心して過ごしていただけるようにしています。
- 利用者同士や職員との関わりの中で、「自分らしく」交流や自己表現ができるように心がけています。
- 介護されている方の身体的及び精神的な負担を軽減出来るよう、ご家族と共に考えています。

1日の流れ

9:00~10:15	センター到着 健康チェック
10:15~10:45	朝の体操
10:45~11:40	午前の活動
11:40~12:00	休憩 水分補給 トイレ
12:00~13:00	昼食 休憩
13:00~14:30	午後の活動
14:30~16:30	休憩 水分補給 トイレ レクリエーション 静養など

活動内容（4月~11月）

その方の持っている力を活かし、楽しく活動しながら自信や意欲が持てるよう色々な活動を行なっています。昔なじみの活動や話題なども取り入れています。

◎体操（ボール運動、新聞棒体操、パワーリング、にぎにぎ体操）

⇒身体機能が高い方が多く、昔は卓球が得意だった、リレーの選手だったと話も弾みながら運動しています。動かすと気持ちいいわねと皆さん自然と体が動いています。

◎レクリエーション（ボウリング、卓球、輪投げ、パットゴルフ、ポケネット、スイカわりなど）

⇒楽しみながら体を動かしています。難しいルールになると理解できないこともあるため、比較的分かり易いものを行っています。

◎頭の体操（計算問題、しりとり、言葉の想起）

⇒計算は得意と言う方も多いので集中して取り組めるものの一つです。その方の特徴を知ることでもあります。

◎製作（季節の飾り作り、バラの製作、縫い物）

⇒作業能力に合わせ、その方の出来る事を行っています。作品が出来上がると達成感があり、皆でよく頑張ったね、きれいに出来たねと互いに声を掛け合っています。

◎音楽療法・歌

⇒歌は皆さんよく覚えておられます。言葉が出にくい方も歌詞は出るという方も多いです。歌からその時代を思い出したり、季節を感じることができ、話が弾みます。感情豊かに表現できるものの一つです。

◎調理活動（よもぎまんじゅう、白玉ぜんざい、どら焼き）

⇒主婦の皆さんの力が発揮される活動です。若い職員にコツを教えて下さって、イキイキとされています。男性利用者も積極的に参加されています。

◎外出活動（お花見・弘済園やドライブ、鯉のぼり・野川沿い、買い物、はばたけの秋祭り、深大寺、星と森と絵本の家）

⇒外に出て季節を肌で感じたり、気分の発散をする事が出来ます。地域の方達とのふれあいや、歩行訓練にもつながっています。

◎誕生会（毎月その方に合わせた内容で行なっています）

・けやき苑の認知症対応型通所介護は一般通所介護と併設であるため、一般型で認知症状が進み適応できなくなった方が移行する場合があります。ご本人やご家族の気持ちを尊重しながらスムーズに移行できるように対応しています。

・部屋が固定している事や部屋に自分の名前があることで、自分の居場所として馴染み、安心して過ごされています。

・認知症の進行により、今まで出来ていた事が出来なくなったり、認知機能の低下や身体機能の低下がみられる方もいる一方で、認知機能が保たれ、身体的にも元気な方もいらっしゃるので、活動内容のバランスを考えながら行っています。

また、新規の方には、その方のパーソナリティや今の力を早く把握できるように気を付けています。

・体力の低下から、疲労感が見られる方もおり、活動の中でもリラックスし休息できるような過ごし方も考えています。

・現在、通所中に帰宅欲求の強い方はいませんが、自宅から徘徊する可能性のある方は数名いらっしゃいます。

・介護されているご家族では、主介護者が夫である方が10名と一番多い状況です。家事と介護を同時にするようになり、負担を感じておられる方が多いので、密に連絡を取り合うようにしています。連絡ノートを利用し、日々のご様子をご家族にお伝えし、情報交換しています。必要に応じて電話でも連絡を取り、ケアマネージャーとも情報交換しています。

家族会

苑全体での家族会の他、昨年度よりけやきの会の家族会を開催しています。
今年度は11/9に開催しました。
介護しているご家族同士だからこそ、共有できる悩みを話せる場となっています。

職員研修

11/9に、認知症のケアをロールプレイで行い、コミュニケーションがうまく取れない方がどう感じているかを考える研修を行いました。